

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p><b>よさ</b> 昨年度の漢字小テスト正答率は82%、計算小テスト正答率は87%で、基礎的・基本的な知識・技能は児童にほぼ身についていると思われる。基本的な発表の仕方や聞き方は身につけている。</p>	<p>①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる子ども。 ②校内で作成した指標『基礎基本の定着をめざして』に示した「話す」「聞く」「読む」「書く」の到達目標を達成できる子ども。</p>	<p>①漢字や計算などの基礎的・基本的な事項についての定着確認テストで正答率85%以上にする。 ②「話す」「聞く」「読む」「書く」の到達目標B評価の児童を80%以上にする。</p>			
<p><b>課題</b> 問われたことに単語で答えたり、言いたいことを十分に伝えられない児童がいる。語彙数が少なく理由や根拠を明確にし自分の考えを書いたり話したりするのが苦手な児童が多い。</p>	<p><b>具体的方策(教員の取組)</b> ①計画的に宿題を出すとともに、日記・作文指導を充実させる。家庭学習の手引きを活用できるように働きかける。 ②朝の活動に漢字・計算・読解の時間を設定し継続的に学習をする。 ③各教科等における問題解決的な学習を行うとともに、「話す」「聞く」「読む」「書く」活動の充実を図る。 ④効果的なTT指導について研究を推進することにより、「できる」「深める」「広げる」授業づくりに努める。</p>	<p><b>取組指標</b> ①自主学習ノートや宿題を賞賛し、家庭学習の仕方について根気よく指導をする。 ②漢字月末テストなどの学力定着確認テストを行い80%以上の定着を目指す。 ③『基礎基本の定着をめざして』にある指標を定期的に確認する。 ④教師の役割分担を明確にし、座席表を活用する等、効果的なTT指導を行う。</p>			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p><b>よさ</b> 方法や手順の見える化により、見通しを持ち、学習に積極的に取り組む児童が多い。生活科や総合的な学習を中心とし体験活動に意欲的に取り組みことができ、探求的な学習活動に取り組める。</p>	<p>①ペアやグループで目的に応じて根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話すことができる子ども。 ②話し手の意図を自分の考えと比較し、質問したり感想を述べたりすることができる子ども。 ③自分の思いや考えを様々な表現方法で伝えることができる子ども。</p>	<p>①児童アンケート、児童の割合を80%以上にする。 ②児童アンケート、児童の割合を80%以上にする。 ③児童アンケート、児童の割合を80%以上にする。</p>			
<p><b>課題</b> 自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力、必要な情報を選択し、筋道を立てて説明する力に課題がある。自分の考えを具体的に操作したり、図や絵、式に表すことが苦手な児童が多い。</p>	<p><b>具体的方策(教員の取組)</b> ①話し合いの手引きを活用して、ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れ、友達の意見を聞き、自分の考えを深めさせる。 ②相手や目的に応じて「書く」ことができるように機会を捉えて「書く」指導をする。 ③ホワイトボードを活用し、分かりやすく自分の考えを書いて伝える方法を指導する。</p>	<p><b>取組指標</b> ①教員アンケート、教員の割合を85%以上にする。 ②教員アンケート、教員の割合を85%以上にする。 ③教員アンケート、教員の割合を85%以上にする。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
<p><b>よさ</b> 地域の人・もの・ことを学び対象とした活動や『生活・総合フェア』の発表などでは、生き生きとした表情で積極的に取り組むことができる。自主学習ノートを用いて自分の興味のある課題について意欲的に学習する児童が増えてきた。身近な生活の中から課題を見つけ、全体で共有し問題を解決していく力が育っていない。読書タイムの実施により学校では読書をする児童が増えてきたが、家庭では読書時間が少ない。</p>	<p>①家庭学習や苦手な課題についても根気強く取り組むことができる子ども。 ②読書を楽しむ習慣を身につけ、本や文章を読むことで、自分の考えを深めることができる子ども。</p>	<p>①学校の授業の復習をしている児童の割合を80%以上にする。 ②家庭でも読書ができる手だてをし、家庭で読書をする児童の割合を70%以上にする。</p>			
	<p><b>具体的方策(教員の取組)</b> ①家庭学習強化週間を年間5回設定し、目標を持たせて取り組ませる。 ②「読書カード」に、題名などを記録させ意欲を持たせる。町立図書館と連携を図り、読書を充実させる。</p>	<p><b>取組指標</b> ①家庭学習チェック表を記録させ、宿題や自主学習で学校の授業の復習をしている児童の割合を、85%以上にする。 ②児童の意欲的な読書を賞賛していく。</p>			

平成28年度 学力向上ロードマップ



